会　議　録

１　会議名

令和４年度第１０回八千浦区地域協議会

２　議題（公開・非公開の別）

【協議事項】

・「地域活性化の方向性」について（公開）

３　開催日時

令和５年１月２７日（金）午後６時３０分から午後７時２７分

４　開催場所

八千浦交流館はまぐみ　多目的室

５　傍聴人の数

１人

６　非公開の理由

―

７　出席した者（傍聴人を除く）氏名（敬称略）

・委　員：　仲田紀夫（会長）、伊倉幹夫、笠原　武、笠原幸博、坂詰喜範、
羽深栄一、平野和夫、栁澤　篤、渡辺孝三郎、渡邉修一（欠席者２名）

・事務局：　北部まちづくりセンター：中村センター長、小川係長、千田主任

８　発言の内容

【中村センター長】

・会議の開会を宣言

・上越市地域自治区の設置に関する条例第８条第２項の規定により、委員の半数以上の出席を確認、会議の成立を報告

【仲田会長】

・挨拶

・会議録の確認：笠原武委員、笠原幸博委員に依頼

次に【協議事項】地域活性化の方向性について、事務局へ説明を求める。

【千田主任】

・資料№.１「『地域活性化の方向性』について出された意見」

資料№.２「『地域活性化の方向性』の検討について」

資料№.３「八千浦区の地域活性化の方向性について出された意見【再整理】」

に基づき説明

本日は、資料№.３をもとに、前回までに出された意見や地域の皆さんからの意見について、追加や補足したいことなど意見を出していただき、資料№.２の今後の進め方について、意見交換の実施の有無や内容も含めてご協議いただきたい。

【仲田会長】

前回出された意見が資料№.１に記載してあり、それを踏まえて、資料№.３にそれぞれ再整理されているので、これをもとに、補足、或いは、新たな意見等があったら、皆さんと意見交換をしていきたいと思う。

【笠原幸博委員】

資料№.１に検討の進め方について書いてあるが、八千浦地区明るい町づくり協議会も交えて検討してはどうかというこの意見に大賛成だ。いろいろな課題を解決する糸口になるのではないかと考えている。ぜひ、明るい町づくりを交えて検討していきたいと思う。

【仲田会長】

資料№.１で下線を引いてあるのは、それぞれ前回出された意見で、さらに再度意見が出た。重複しても構わないので、意見をいただければと思う。新たに住民の方からも、意見をいただいているので、それも踏まえて、資料№.３でテーマごとに分類をされているので、資料№.１と見比べながら意見があればお願いしたい。

【栁澤委員】

大人も子どもも参加できる種目の大会を年に何回か開催できたらよいと書いてあるが、グラウンドゴルフというと海水化工の跡地よりも適している場所があった。遊光寺浜と夷浜の間に市の土地がある。私のウォーキングコースになっているが、林間コースとして非常によい、ロングもショートもすばらしいコースができるはずである。ボールが道路に転がらないような工夫をして、コースに沿って草刈りをすればよいのではないかと思う。例えば、草刈りをしてコースができたら、１か月のうち、３日か４日開放するとか、上越地区の中では、雪が一番早く消えるので、その辺の魅力も非常にあると思う。

【伊倉委員】

その場所は、地下に送電線が通っているので、電磁波が出るところである。

【仲田会長】

電線の地中化をした時に、遊光寺浜からの申し入れだと思うが、電磁波調査をやっている。それで人体に影響があるような測定値はないということであるので、土地の利用について、考慮していけばよいと思うが、それについて意見等を求める。もともと火力発電所の送電線の時に、あそこは公園緑化地域で公園にするという計画もあったが、それが市の計画の中では途中で頓挫して、単なる緑地になったという経過があるので、今言われたように、市と協議して常設コースを作るのもよいかもしれない。

今日配布していただいた「伝えたい八千浦の魅力」は、元気の出るふるさと講座の受講生が作った資料である。この資料は、すごく参考になるのではないか。

【渡辺孝三郎委員】

記憶が定かではないが、以前、各町内会長の文書を載せた小冊子を読んだ覚えがある。それに良いことがたくさん書いてあったので、知らない年代の人に再発行できたらよいと思う。

【仲田会長】

学校でまとめた冊子だったと思う。各町内の歴史が書いてある厚い冊子だった。それをまとめていくという考え方も貴重な意見だと思う。

【笠原武委員】

我々の年代はどちらかというと、八千浦区が一つにまとまって、年代を超えていろいろな活動や大会を行ってきたが、最近、コロナの関係もあり、そういう世代を超えた活動が非常に少なくなっていると思う。やはり、明るい町づくり協議会が中心になって呼びかけて、幅広い年齢層の方が参加できる会、或いは、研修会などを開催したらどうかと思う。

【羽深委員】

地域の活性化ということで、他の地域から八千浦に転居していただくとか、転居までいかないにしても、まず、知ってもらって人が集まってくれるという方策もあるが、八千浦の人が外に出ないで、ここに残ってくれるということも考えていかなくてはいけないのではないかと思っている。今回、地域協議会だよりで募集したところ、３名の方から意見を寄せられ、どんど焼き、さいの神のことだと思うが、それについて触れられている。昔は子どもが中心になっていたということで、私は八千浦の生まれではないが、子どもが藁を集めるなど子ども中心の行事だったと思う。地域の伝統行事の中でもさい

の神は最たるものだと思う。八千浦区の中でどれだけの町内で、さいの神は行っているのかわからないが、黒井では、基本的に毎年実施している。今年も１５日にあったので見学に行ったが、見に来ている子どもが少ない。私も何年か前に町内の役員で携わったことがあるが、その時も子どもの手伝いはなかった。どれだけ見に来るのだろうかと、今年行ってみたら、数えるほどしか子どもがいない。これでは全く関心を持ってもらえない。ある程度大きくなっても、大人がやることだろうと、関心を持たないのではないか。子どもを小さい頃から巻き込んで、育てていくということが大事ではないかと思う。この時期、市内でもいろいろな町内、或いは、地区で昔からの伝統行事が盛んに行われているが、どの新聞記事を見ても、子どもが少なくなって存続していくことが難しいと書いてある。それでも子どもはみんな参加している。無理やりであっても、そういった行事に参加させる、参加してもらうことで、後輩の人数が少なくなっても伝えていく機会となるため、そういったことをしていかなくてはいけないのではないかと思う。地元の子どもたちがやらないのに、外から来てやってほしいといくら叫んでも難しいのではないかと思う。

もう一つ感じたのは、昔は、書き初めをさいの神で燃やして「燃えたものが高く上がれば上がるほど字が上手になるのだぞ」などと言われていたが、今は、書き初めもやらないのか、燃やしている子どもがいないなと思って見ていた。時代が変わっているとは思うが、そういったところをもう一度見つめ直して、まず、その地域の子どもたちに関心を持たせるということも考えていかなければいけないのではないか。

【仲田会長】

これからの進め方もあると思うが、地域における課題も若干出ているかと思う。

他にどうか。

【平野委員】

羽深委員が言われた、さいの神の行事は、西ケ窪浜には昔からない。なぜかと言うと、火の神ではなくて水の神だからである。そういう地域もある。

資料№.３に、八千浦にしかない自然、防風林・砂丘をキャンプ場として活用してはどうかという記述がある。夷浜の市営住宅の横に保安林があって、その海側に広い敷地がある。今、車で入っていくようなアウトドアがちょっとブームになっているので、あそこをキャンプ場にしてはどうか。始めるには投資が必要かと思う。整備すると管理事務所も作らなくてはいけなくなるが、そこで雇用が生まれるのではないか。あそこが県の

土地なのか、市の土地なのか、町内の土地なのか、その辺がよくわからないので、その辺の了解も必要かと思うが、海が近いのでキャンプをしながら魚釣りを楽しめるのではないか。

【仲田会長】

次の課題として整理をしていければと思う。

【渡邉修一委員】

平野委員がおっしゃったことはよくわかる。今、ＳＮＳとかコンピューターが時代のメインである。行事にしても、何にしても、それに便乗して情報発信していくと人目につく。そうなると人が来ると思う。今の子どもはそういうことに長けていると思うが、外に対してある程度のＰＲの仕方も加味していけば、なおよいのではないか。

【仲田会長】

次に、今後の進め方について意見を求める。

名立区の方向性も参考にして、それらのわからない点も含めて、質問・意見があればお願いをしたい。

資料№.２の上段の基本形を具体的に作り上げていくという作業がこれからあるが、それに対するタイムスケジュールが２月、３月、４月とそれぞれあるので、今日は具体的な話ではなくて、こういう進め方について、皆さん方からご意見いただきたいと思う。それから、先ほどの意見の中で、明るい町づくり協議会との連携、或いは、協議が必要だという意見も出ているので、それを行うか、行わないかも含めて、皆さんから意見をいただきたい。

【平野委員】

資料№.２の構成要素とは、具体的にどういうことか。

【中村センター長】

名立区における「地域活性化の方向性」の例では、構成要素として６つ挙げられている。例えば、地域固有の山、川、海といった資源を活用した地域の振興、歴史・文化の継承、平和を願う活動の継続・発展が自然や文化の分野になってくると思う。次世代の名立区を担う人材の育成、若い人も一緒になったまちづくりの取組。これらは、人材育成、若い人を巻き込んだまちづくりの取組につながってくるかと思う。また、いつまでも安心して暮らすことのできる福祉の充実、地域全体での支え合いの推進。これらは住民福祉の分野になると思う。名立区ではこういうことを大事にして、構成要素としてあ

げて、表題部のキャッチフレーズを作ったと考えている。

八千浦区においても、基になるようなものを資料№.３として、先ほど説明させていただいたが、まず分野ごとに、海、海岸線関係。地域融和、交流促進関係。まちづくり関係、歴史文化関係という形で、この分野からいくつでもいいと思うが、フレーズ的にこういうことを入れたいというのでもよいし、文言を考えていただいても差し支えないので、八千浦区のキャッチフレーズを作っていただく作業をしていただくという形になる。

【平野委員】

参考資料の名立区の「地域活性化の方向性」の中で、キャッチフレーズというのは、この一番上の囲ってある部分の名立区の地域活性化に向けてという部分になるのか。

【中村センター長】

そうである。

【仲田会長】

これからスケジュールでいくと、２月にキャッチフレーズ構成要素の検討ということになるが、それまでに今日のご意見、質問を踏まえて、皆さんから考えてきていただいて、２月に具体的な文言として整理をしていくということになる。今ほど事務局から説明があったように、表題部をどう捉えていくかによってイメージが変わってくると思う。例えば、「名立区の豊かな自然と歴史文化を活かし」そのために、構成要素として何があるかをこういうふうに理解していただくとわかりやすい。「次世代を担う人材を育て」とあるが、下の構成要素の中に「次代を担う人材の育成」もあり、ダブっている。この辺がわかりにくい。ただ、「次世代を担う人を育てる」ということになると、先ほど皆さんから意見が出たように、さいの神を例にすると子どもの参加がない。だから、子どもの参加を促すために構成要素としてどうするかというふうに考えていただくとキャッチフレーズを実現するためにどういう要素を具体的に入れ込んでいくか考えていただければ、キャッチフレーズとそれを実現するために、どういう要素があるか整理していくと、次回議論しやすいかと思う。

【中村センター長】

丸い四角のキャッチフレーズのもととなるのが構成要素だということで、事務局とすると構成要素を先に考えてから、キャッチフレーズを作るというふうに想定していたが、今の会長の考えとしては、逆に、八千浦区の活性化に向けてという表題部を先に決めてから、構成要素を決めてはどうかということであれば、次回までに皆さんから上の四角

のほうを考えてきていただくということも可能だと思う。いろいろな方法で決めていただければよろしいかと思う。

【仲田会長】

八千浦には八千浦の作り方があると思う。資料№.３で事務局のほうで、課題ごとに整理しているので、その中でいくつか選択をしながらキャッチフレーズを作るか、或いは、構成要素を先に考えてキャッチフレーズを作り上げるか、どういうやり方でするかは、次回以降でいいので、そういう整理の仕方をしていただいたほうがわかりやすい。具体的に作り上げていく過程で、例えば、地域住民との意見交換が必要なのか、或いは、出来上がってから地域住民との意見を聞いて補充して、最終的に我々と地域住民で協議した結果を方向性として決めるというやり方もあるのではないかと思う。

明るい町づくり協議会との協議の必要性を検討していただきたいので、それも皆さんから意見を出していただきたい。

【坂詰委員】

構成要素によって変わってくると思うが、明るい町づくり協議会の海まつりや文化展・はまぐみ市をベースに考えると、明るい町づくり協議会が主になって、それに各町内の文化委員の方たちや、それに伴う地域のお手伝いに小・中学校が関連して、さらに、八千浦商工会が入り、活動している。そういう構成が決まれば、どこにお願いに行ったりするかが見えてくるが、今の状態では広過ぎて話もできないし、実現するにはどうしたらよいのかと思う。例えば、文化展となると、地域住民の高齢の方が対象になってくるし、はまぐみ市では、よさこいに小・中学生も参加させるとなるとそっちのほうで担当が変わってくるとは思う。だから、やる目的によって、声をかけるところが変わってくる。

それと、もう１点。昔は青年会や婦人会、町内会にお願いしていたが、結局、明るい町づくり協議会として、いろいろな団体にお願いすると言っても、お願いする団体がないと思う。今、残っているのは、育成会と高齢者の長寿会ぐらいしかない。活性化を考えるのであれば、本当はもっと若い人たち、高校生や２０代の方にこの町をどうしたいのか話し合ったり、動いたりしてもらいたい。どうやって若い人を参加させるか、そういう団体をどうやって作るかだと思う。今回のこれに合わせて、各町内から募集するのか、選抜させるのか。小・中学校にお願いするのか、構成要素が決まってくればそういうところもはっきりして来るのではないかと感じている。

【仲田会長】

今後の進め方は、事務局から出されているスケジュール２月、３月、４月概ねこの方向でよろしいか。そうすれば、住民との話し合いをするか、しないかも出てくるが、まずスケジュール的にはどうか。

（賛同の声）

２月、３月、４月以降のタイムスケジュールとしては、この方向でいく。それから、もう一つは、地域団体との意見交換だが、今ほど坂詰委員からも話が出たように、ある程度そのキャッチフレーズなり構成要素が煮詰まった段階で、必要があれば、意見交換をしていくほうがまとまっていくと思う。何もキャッチフレーズや構成要素のない段階で、意見交換をしたとしてもまとまらない。今ほどの意見を整理させていただくと、キャッチフレーズなり構成要素をある程度、議論を進めながら、その過程で最初になるか途中になるかわからないが、意見交換を行うほうが方向性を見つけやすいのかなと思う。それでよければ、そのようにしたいと思うがどうか。

（賛同の声）

次に「その他」について、事務局へ説明を求める。

【千田主任】

・次回協議会：２月２４日（金）午後６時３０分から

前回の協議会で、関川委員から八千浦小学校の体育館の雨漏りについて発言があり、小学校に状況確認したところ、確かに雨漏りはしているが、状況改善に向けて今年度の調査が入っているとの回答があったことを報告させていただく。

【仲田会長】

・会議の閉会を宣言

９　問合せ先

自治・市民環境部　自治・地域振興課　北部まちづくりセンター

TEL：025-531-1337

E-mail：hokubu-machi@city.joetsu.lg.jp

１０　その他

別添の会議資料もあわせてご覧ください。